

保健管理センター業務報告書

(2024年度版)

筑波大学保健管理センター

目 次

1. 保健管理センター沿革	1
2. 保健管理センター細則	4
3. 保健管理センター運営委員会	
1) 運営委員名簿	13
2) 運営委員会議事	14
4. 保健管理センターの組織図及び職員	
1) 組織図	15
2) 職員	16
5. 対応業務等	17
6. 入学志願者健康診断書審査及び精密健康診断	19
7. 学生健康診断	
1) 定期健康診断	
i) 受診状況	20
a) 学群生	20
b) 大学院生	20
c) 研究生等	20
ii) 健康診断再検査者	21
2) 特殊健康診断	
i) 電離放射線健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）	22
ii) 有機溶剤健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）	22
iii) 特定化学物質健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）	22
8. 職員健康診断	
1) 一般健康診断	
i) 定期健康診断受診者数及び受診率	23
ii) 事業場ごとの有所見者数及び有所見率	24
iii) 項目別有所見者数及び有所見率	25
iv) 年間の有所見者数	26
v) 特定業務従事者の健康診断	26
2) 特殊健康診断	
i) 電離放射線健康診断	27
ii) 有機溶剤健康診断	27
iii) 特定化学物質健康診断	28
iv) 高気圧業務健康診断	28

3) 事後措置	
i) 受診勧奨及び健康相談	28
ii) 医師の意見	28
4) がん検診	
i) 胃造影検査	29
ii) 便潜血反応検査	29
iii) P S A検査	29
9. 保健管理センター利用状況	
1) 健康相談月別利用状況	
i) 学生内科受診数	30
ii) 学生整形外科受診数	30
iii) 学生外科処置受診数	30
iv) 学生精神科受診数	31
v) 職員・その他	31
vi) 産業医面談	31
2) 診療収入等	32
10. その他	
1) インフルエンザワクチン接種	33
2) 臨床検査実施数	33
3) エックス線写真撮影件数及び枚数	34
4) 心理検査実施数	35
5) 処方箋発行数	36
6) 外部診療機関紹介状況	37
7) 健康診断証明書等発行数	38
8) 救護活動	39
9) 救急箱貸出数	40
10) 医療安全教育研修	41
11. 研究業績	42

1. 保健管理センター沿革

昭和48年10月の筑波大学の開学にあわせて、保健管理センターが設置された。昭和49年4月に専任の職員が発令となり、オリンピック記念青少年総合センターにおいて開かれた新入学生オリエンテーション以降、臨床医学系教員ほか関係各位の協力を得て救護活動を開始した。

昭和49年6月3日に筑波地区での講義開始に合せ、体育合宿所の一部で本格的業務を開始し、昭和50年7月に専用の建物が現在地に竣工し、移転した。

なお、昭和49年9月から、文部省（現文部科学省）共済組合筑波大学支部診療所が当センターに併設され、以後その業務についてもセンター職員が兼務している。

昭和53年3月31日の東京教育大学の閉学、筑波大学への移管に伴い、東京教育大学で健康管理業務を担ってきた健康相談所も閉鎖され、本学東京地区職員の健康管理業務は当センターが行うことになった。

昭和54年10月から、一の矢学生宿舎に夜間医務室を設け、医師が宿泊し夜間の救急に備えた。

開学当初は学生相談の対応とともに内科、精神科、整形外科及び歯科を開設し、昭和50年に眼科（～平成元年度）、また昭和57年には婦人科（～平成8年度）が開設され、さらに昭和63年には運動選手を主たる対象とするスポーツ・クリニックも始められた。

平成元年に創立15周年を迎え、記念誌「健康への歩み」を発行した。

平成3年7月に、本学が当番大学となり第29回全国大学保健管理研究集会関東甲信越地方部会研究集会を大学会館国際会議室において開催した。

平成3年末に、附属病院の救急部の新設や近隣病院の開設等の医療体制の整備に伴い、一の矢学生宿舎の夜間医務室を廃止した。また、プロジェクトとしてのスポーツ・クリニックが終了し、平成4年度からはスポーツ外来部門を当センターの業務、トレーニング・クリニック部門を体育センターの業務とするスポーツ・クリニックがスタートした。

平成6年には、創立20周年を迎え、記念誌「学生相談室20周年誌」を発行した。

平成9年12月に、センター事務室等の改修工事が行われ、事務部門及び看護部門を一体化し、サービスセンターとしての機能の向上を図った。

平成10年4月から、健康診断実施業務の充実と省力化を図るため外部業者に業務委託を行うとともに、関連業務の効率化を図るための電算化を開始した。

平成11年には、健康診断業務の電算化をさらに推進し、受診者の健康管理や健康診断証明書発行業務等での一層の効率化を図った。また、創立25周年を迎え、記念誌を発行した。

平成14年10月の図書館情報大学との統合に伴い同大学体育・保健センターの保健部門との組織及び業務の統合が行われた。

平成16年4月の国立大学法人化に伴い、当センターも労働安全衛生法に基づく労働安全衛生業務を担当することになり、センター職員も産業医や衛生管理者として専門的業務に対応することになった。

平成19年7月に、本学が当番大学となり第45回全国大学保健管理研究集会関東甲信越地方部会研究集会を大学会館講堂において開催した。

平成20年1月に、学生健康診断証明書の証明書自動発行機からの発行が開始となり、学生の利便性が図られた。

平成23年3月に、学生相談のWEBサイトのリニューアルを行い、モバイルサイトを構築した。

平成24年2月に、学生相談窓口を春日エリアにも開設した。

平成24年3月に、保健管理センターホームページのリニューアルを行った。

平成25年10月1日から、耐震改修工事のため、文部科学省共済組合筑波大学支部診療所を休診とし、当センターのみ11月11日に、クラブハウスに仮移転して診療業務を開始した。なお、文部科学省共済組合筑波大学支部診療所は、耐震改修後の併設が困難なことから、平成26年1月31日に廃止した。

平成26年6月24日に、当センターの耐震改修工事が完了したため、仮移転先のクラブハウスから移転した。

平成27年10月から、本学附属病院主催の「診療の安全に関する研修」（年2回開催）を当センターにてDVD研修として実施した。

平成28年6月に設置された保健管理センターのあり方検討会を経て、11月に保健管理センター改革準備委員会が設置され、平成29年6月に役員会において改革提言（診療の有償化、健診・救護に関わる業務の効率化、学生相談・メンタルヘルス対策充実に関わる体制・環境の見直し及び管理・運営体制の見直し）が報告された。

改革提言のもと、平成30年4月よりセンター組織をフィジカルヘルス部門とメンタルヘルス部門に分け、副所長を設置した。さらに入試救護の集約化、後発医薬品の積極採用が行われた。平成31年1月からは診療情報管理システム“THOCS”を導入し、診療料金等の有償化を開始した。同年4月、保健管理センターから学生相談室を分離独立させ、学生相談体制の強化を図った。また、スポーツ・クリニックを整形外科に統合した。さらに、同年度より健康診断における法定外の項目を中心とする検査項目の見直しが行われた。

令和元年11月に感染症予防対策の一環として、希望者に対し、インフルエンザワクチン接種を実施した。

令和2年8月に新型コロナウイルス感染症の疑いのある者に対する発熱外来（電話診療）を設置した。

大学周辺には歯科施設が充足している状況にあること等を踏まえ、令和3年3月31日を以って歯科診療を廃止した。

令和3年8月30日から11月5日まで、新型コロナウイルスワクチン職域接種（1、2回目）が実施され、当センターからも人員を派遣し協力した。

令和4年6月6日から6月17日まで、12月5日から12月16日まで、新型コロナウイルスワクチン職域接種（3、4回目）が実施され、当センターからも人員を派遣し協力した。

令和5年10月26日から10月27日まで、医学群生の臨床実習時におけるインフルエンザ感染予防を目的とし、医学群生へのインフルエンザワクチン接種を実施した。

2. 保健管理センター細則

〔平成16年4月1日〕
〔保健管理センター部局細則第1号〕

改正 平成26年保健管理センター部局細則第1号
平成30年保健管理センター部局細則第1号
平成30年保健管理センター部局細則第2号
平成31年保健管理センター部局細則第1号
令和元年保健管理センター部局細則第1号
令和元年保健管理センター部局細則第2号
令和2年保健管理センター部局細則第1号
令和3年保健管理センター部局細則第1号
令和4年保健管理センター部局細則第1号
令和5年保健管理センター部局細則第1号

保健管理センター細則

(趣 旨)

第1条 この部局細則は、国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則（平成16年法人規則第1号。以下「基本規則」という。）第51条第5項の規定に基づき、保健管理センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 センターは、国立大学法人筑波大学（以下「本学」という）における保健管理に関する専門的な業務を行い、もって本学の学生及び職員の心身の健康の維持及び増進を図ることを目的とする。

(業 務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学生及び職員等の健康管理等についての企画及び立案に関すること。
- (2) 学生及び職員等の定期及び臨時の健康診断の実施並びに保健指導に関すること。
- (3) 学生及び職員等の急病等に対し応急診療及び救急処置を行うこと。
- (4) 学生及び職員等の健康相談に応じること。
- (5) 学生のメンタルヘルスに関する相談、診療及び企画を行うこと。
- (6) 環境衛生及び伝染病の予防に関し教育指導を行うこと。
- (7) 心身の健康障害の予防及び保健管理の充実向上のための専門的調査研究を行うこと。
- (8) その他健康管理等に関する専門的業務を行うこと。

- 2 センターは、前項各号の業務のうち職員に係るものについては、基本規則第35条第1項及び国立大学法人筑波大学職員の安全衛生管理規則（平成16年法人規則第29号）第10条に規定する特別な組織として設置される環境安全管理室と連携して、これを行うものとする。

（診療料金等）

- 第4条 前条第1項第3号及び第5号に規定する診療及び処置に関する業務において、診察費、薬剤費、検査費、処置費、書類作成費等（以下「診療料金等」という。）を徴収する。
- 2 前項に規定する診療料金等の額及び徴収方法は、別表のとおりとする。
- 3 第1項に規定する診療料金等の領収証書、領収済報告書及び原符の様式は、それぞれ別記様式第1号から第3号までのとおりとする。

（副所長）

- 第5条 センターに、副所長を置く。
- 2 副所長は、センターの業務に従事する大学教員のうちからセンターの長（以下「所長」という。）が指名する。
- 3 副所長は、所長の職務を補佐する。
- 4 副所長の任期は、2年とする。ただし、任期の終期は、副所長となる日の属する年度の翌年度の末日とする。
- 5 前項本文の規定にかかわらず、任期中に欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 副所長は、再任されることができる。

（部 門）

- 第6条 センターに、次の表の左欄に掲げる部門を置き、同表右欄の業務を担当する。

名 称	担当業務
フィジカルヘルス部門	身体の健康に関する業務
メンタルヘルス部門	メンタルヘルスに関する業務

- 2 前項に規定する部門にリーダーを置き、所長が指名する。
- 3 リーダーは、第1項に掲げる業務を統括する。
- 4 リーダーの任期は、2年とする。ただし、任期の終期は、リーダーとなる日の属する年度の翌年度の末日とする。
- 5 前項本文の規定にかかわらず、任期中に欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 リーダーは、再任されることができる。

(運営委員会)

第7条 センターに、基本規則第53条第1項に規定する運営委員会として、センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- 2 委員会は、センターの管理運営に関する基本的な事項を審議する。
- 3 委員会は、次に掲げる委員で組織する。
 - (1) 所長
 - (2) 副所長
 - (3) センターの業務に従事する大学教員 2人
 - (4) 医学医療系長の推薦に基づき所長が委嘱する大学教員 3人
 - (5) その他センターの維持運営に関係する大学教員 5人
 - (6) 学生部長

第8条 前条第3項第3号から第5号までの委員の任期は、2年とする。ただし、任期の終期は、委員となる日の属する年度の翌年度の末日とする。

- 2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 前2項の委員は、再任されることができる。

第9条 委員会に委員長を置き、第7条第3項第1号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、第7条第3項第2号の委員がその職務を代行する。

第10条 委員会は、過半数の委員が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(専門研究員)

第11条 センターに、特定の業務について調査研究を行わせるため、専門研究員を置くことができる。

- 2 専門研究員は、大学教員のうちから所長が指名する。
- 3 専門研究員の任期は、1年とする。ただし、任期の終期は、専門研究員となる日の属する年度の末日とする。

(センター会議)

第12条 センターに、センターの業務の円滑な運営を図るため、センター会議を置く。

- 2 センター会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この部局細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則施行前に運営委員会の委員である者であって、この部局細則施行後も当該委員として任期が引き続くものについては、この部局細則により運営委員会の委員となるものとみなす。ただし、その任期は、第5条第1項本文の規定にかかわらず、この部局細則施行の日から平成17年3月31日までとする。

附 則（平26. 12. 16保健管理センター部局細則1号）

この部局細則は、平成26年12月16日から施行し、改正後の国立大学法人筑波大学保健管理センター細則の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平30. 3. 20保健管理センター部局細則1号）

この部局細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平30. 12. 21保健管理センター部局細則2号）

この部局細則は、平成31年1月1日から施行する。

附 則（平31. 3. 1保健管理センター部局細則1号）

この部局細則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令元. 9. 6保健管理センター部局細則1号）

この部局細則は、令和元年10月1日から施行する。

附 則（令元. 10. 8保健管理センター部局細則2号）

この部局細則は、令和元年11月1日から施行する。

附 則（令2. 6. 22保健管理センター部局細則1号）

この部局細則は、令和2年6月22日から施行し、改正後の保健管理センター細則の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則（令3. 3. 10保健管理センター部局細則1号）

この部局細則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令4. 9. 20保健管理センター部局細則1号）

この部局細則は、令和4年9月20日から施行する。

附 則（令 5. 2. 21 保健管理センター部局細則 1 号）
この部局細則は，令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第4条関係）

1 診療料金等の額

単位：円

項 目		内 科	整形外科	精神科
(1) 診察費		500	500	1,000
(2) 薬剤費		300	300	1,000
(3) 検査費	(a) レントゲン	500	500	500
	(b) 心理検査			1,000
	(c) 心理検査（簡易）			500
	(d) その他の検査	500	500	500
(4) 処置費	(a) 医師処置	500	500	500
	(b) 医師処置			
(5) 書類作成費等	(a) 紹介状	1,000	1,000	1,000
	(b) 診断書（センターの診療に基づくもの）	1,000	1,000	1,000
	(c) 特殊診断書	2,000	2,000	2,000
	(d) レントゲンコピー	500	500	500
	(e) 検査結果コピー	500	500	500
	(f) その他	1,000	1,000	1,000
(6) ワクチン接種料	(a) インフルエンザ	3,000		

2 診療料金等の徴収方法

(1) 定期健康診断の呼出し診療

定期健康診断の呼出しによる診療及び再検査は、無料とする。ただし、当日に薬剤処方が必要な場合は、薬剤費を徴収する。

(2) 1診療科を受診する場合

レントゲン及び心理検査以外の検査は、複数行われた場合であっても、検査費は500円とする。

(3) 複数の診療科を受診する場合

診察費、薬剤費、検査費及び処置費は、それぞれの診療科の診療料金等の額の合計額とする。

(4) その他

(ア) 学生及び職員の定期健康診断に基づく健康診断証明書の作成は無料とする。

(イ) 来所証明書及びSPEC指示書の作成は無料とする。

(ウ) 看護師健康相談は無料とする。

(エ) 松葉杖等装具貸出しは無料とする。

(オ) 学生の保護者、又は指導教員等に対する相談は無料とする。

(カ) 特殊診断書には、センターの診療に基づく定型の診断書以外のすべての診断書を含む。

領 収 証 書		No	
殿		(摘要)	
領 収 金 額		千	百
	十	万	千
	百	十	円
上記金額領収いたしました。 年 月 日 国立大学法人筑波大学 出納役		領 収 日 付 印	
		円	
		円	
		円	
合計金額		円	
(大きさ A4)			

領 収 済 報 告 書

No

		(摘要)							
		殿							
領 収 金 額		千	百	十	万	千	百	十	円
上記金額領収いたしました。 年 月 日 国立大学法人筑波大学 出納役								領 収 日 付 印	

円
円
円

合計金額

円

(大きさ A4)

別記様式第 3 号 (第 4 条関係)

原 符	No									
	(摘要)									
殿										
領 収 金 額	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">千</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">百</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">万</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">千</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">百</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">円</td> </tr> </table>		千	百	十	万	千	百	十	円
	千	百	十	万	千	百	十	円		
上記金額領収いたしました。 年 月 日 国立大学法人筑波大学 出納役	領 収 日 付 印									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border-top: 1px solid black;">合計金額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">円</td> </tr> </table>			円		円		円	合計金額	円	
	円									
	円									
	円									
合計金額	円									
(大きさ A4)										

3. 保健管理センター運営委員会

1) 運営委員名簿

令和6年4月1日現在

氏名	職名	所属	任期	備考
(センター所長)				
◎太田深秀	教授	医学医療系	—	
(センター副所長)				
間瀬かおり	准教授	医学医療系	—	
(センターの業務に従事する大学教員)				
村越伸行	准教授	医学医療系	6.4.1～8.3.31	
白鳥裕貴	講師	医学医療系	6.4.1～8.3.31	
(医学医療系長の推薦に基づき所長が委嘱する大学教員)				
檜澤伸之	教授	医学医療系	5.4.1～7.3.31	
石津智子	准教授	医学医療系	5.6.1～7.3.31	
川上康	教授	医学医療系	5.4.1～7.3.31	
(その他センターの維持運営に関係する大学教員)				
中村修	教授	環境安全管理室	6.4.1～8.3.31	環境安全管理室長
本間三和子	副学長	学生担当	6.4.1～8.3.31	スチューデントサポートセンター 学生生活支援室長
杉江征	教授	人間系	6.4.1～8.3.31	スチューデントサポートセンター 学生相談室長
鍋倉賢治	教授	体育系	6.4.1～8.3.31	体育スポーツ局 体育統括長
新井哲明	教授	医学医療系	6.4.1～8.3.31	附属病院 精神神経科グループ長
(本部部長であって学生生活に関する業務に従事する職員)				
中澤秋夫	部長	学生部	—	

◎は委員長を示す。

2) 運営委員会議事

令和6年度の運営委員会は1回開催し、保健管理センターの利用状況等について、令和8(2026)年度関東甲信越地区大学保健管理研究集会の当番校についての報告を行った。

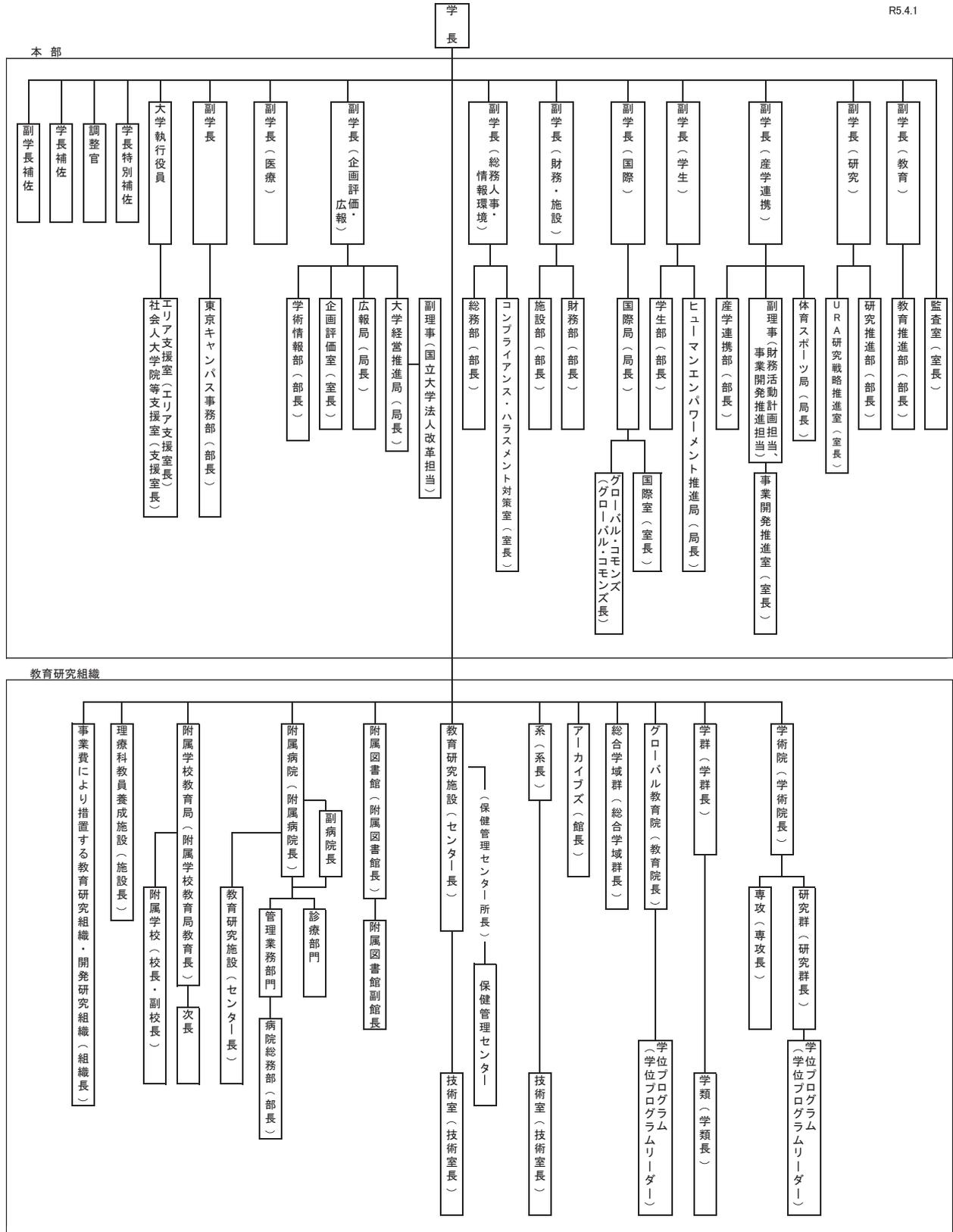
第1回 令和7年1月21日開催

議題等(報告)

- ・令和8(2026)年度関東甲信越地区大学保健管理研究集会の当番校について

4. 保健管理センターの組織図及び職員

1) 組織図



2) 職 員

所 長 精 神 科：太田 深秀 教授

副 所 長 内 科：間瀬 かおり 准教授*

教 員 内 科：村越 伸行 准教授*，谷田貝 洋平 講師
整形外科：三浦 絃世 講師
精 神 科：白鳥 裕貴 講師*，袖山 紀子 助教

医 療 職 員 寺門 恵美子 看護師，大川 明日香 看護師（～ 9/30）
浅原 雅子 看護師，坂本 幸子 看護師，
岩田 麻里 保健師
大畑 瞳 薬剤師
片岡 裕司 診療放射線技師

事 務 職 員 中山 頼親 専門員，鶴川 正美 係長，黒堀 沙織 一般係員

非 常 勤 医 師 埜口 博司（整形外科），宮本 芳明（整形外科）
渡部 衣美（精神科）

非 常 勤 職 員 等 渡邊 明子 薬剤師，稲葉 由美子 臨床検査技師
増田 彩乃 臨床心理士（テスター）
井坂 信夫 シニアスタッフ
正田 奈緒子 事務補佐員
鈴木 京子 派遣職員

（注）*は産業医

他に臨床医学域，心理学域，体育系からの多数の教員の御協力・御支援をいただいた。

5. 対 応 業 務 等

4 月	入学式救護と新入生オリエンテーション対応 学群学生，大学院学生，研究生，日本語研修生等の定期健康診断と再検査
5 月	放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 障害のある学生定期健康診断 職員一般定期健康診断 学生・職員特殊健康診断 職員便潜血検査・前立腺特異抗原（PSA）検査 春季スポーツ・デー救護
6 月	職員一般定期健康診断 学生・職員特殊健康診断 職員の便潜血検査・前立腺特異抗原（PSA）検査 職員一般定期健康診断（東京地区） 学生定期健康診断（東京地区） 学生・職員特殊健康診断（東京地区） 職員の便潜血検査・前立腺特異抗原（PSA）検査（東京地区） 体育専門学群学生水泳臨海実習参加者健康診断審査・精密検査
7 月	放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 共通科目「体育」集中実習（水辺活動）受講学生に対する健康診断審査・精密検査 大学院推薦入学試験に伴う救護 学群編入学試験に伴う救護
8 月	大学院入学試験に伴う救護 受験生のための筑波大学説明会に伴う救護 国際バカロレア特別入学試験に伴う救護
9 月	全国大学保健管理協会・関東甲信越地方部会研究集会参加
10 月	インフルエンザワクチン接種 アドミッションセンター入学試験（第Ⅰ期），国際科学オリンピック特別入学試験， 国際バカロレア特別入学試験に伴う救護 全国大学保健管理研究集会参加 医学群生へのインフルエンザワクチン接種
11 月	秋学期入学者・外国人留学生健康診断と再検査 職員特定健康診断（春季未受診者を含む） 学生・職員特殊健康診断 放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 職員特定健康診断（春季未受診者を含む）（東京地区） 職員特殊健康診断（東京地区）

11月	職員の胃エックス線検査・眼底検査（東京地区） 学園祭に伴う救護 秋季スポーツ・デー救護 学群推薦入学試験に伴う救護 学群推薦入学試験（体育専門学群）に伴う精密検査 インフルエンザワクチン接種
12月	学群編入学試験追試験に伴う救護 職員の胃エックス線検査 大学院（グローバル教育院）入学試験に伴う救護 インフルエンザワクチン接種
1月	大学入学共通テストに伴う救護 大学院入学試験（2月期）に伴う救護
2月	学生定期健康診断（医学類，看護・医療科学類，教育実習，介護等体験） 個別学力検査等試験前期日程に伴う精密検査・救護
3月	放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 個別学力検査試験後期日程に伴う救護 卒業式・学位記授与式に伴う救護

（注）（東京地区）の記載のないものはすべて筑波地区で実施したもの。

標記の行事等対応業務のほか，次の日常的な主要業務を行った。

- ・内科，整形外科，精神科の日常診療，健康相談，随時応急措置
- ・学生有償健康診断
- ・学生，職員要経過観察者の管理
- ・精神衛生相談
- ・健康診断証明書の発行
- ・海外派遣労働者健康診断

6. 入学志願者健康診断書審査及び精密健康診断

月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
学 群 個別学力 検 査											18		18
学群推薦 A C入試								16					16
計								16					

※上段は書類審査数，下段は精密健康診断を実施

7. 学 生 健 康 診 断

1) 定期健康診断

i) 受診状況

a) 学群生

健 診 種 別	2月(実習)			4月(定期)			10月(二学期入学・留学生等)		
	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	在籍者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
人 文・文 化 学 群	56	54	96.4%	893	612	68.5%	5	5	100.0%
社 会・国 際 学 群	10	9	90.0%	687	388	56.5%	13	9	69.2%
人 間 学 群	46	43	93.5%	478	370	77.4%	0	0	0.0%
生 命 環 境 学 群	34	33	97.1%	989	683	69.1%	16	14	87.5%
理 工 学 群	38	37	97.4%	2,130	1,309	61.5%	12	11	91.7%
情 報 学 群	9	8	88.9%	1,044	647	62.0%	3	3	100.0%
グ ローバル教育院	0	0	0.0%	23	9	39.1%	14	14	100.0%
医 学 群	498	467	93.8%	821	732	89.2%	9	9	100.0%
体 育 専 門 学 群	153	144	94.1%	898	748	83.3%	3	3	100.0%
芸 術 専 門 学 群	29	28	96.6%	419	304	72.6%	4	4	100.0%
総 合 学 域 群	6	5	83.3%	435	403	92.6%	3	3	100.0%
学 群 計	879	828	94.2%	8,817	6,205	70.4%	82	75	91.5%

b) 大学院生

大 学 院	6	4	66.7%	7,126	3,050	42.8%	227	122	53.7%
-------	---	---	-------	-------	-------	-------	-----	-----	-------

c) 研究生等

研 究 生 等	3	3	100.0%	722	296	41.0%	490	309	63.1%
---------	---	---	--------	-----	-----	-------	-----	-----	-------

合 計	888	835	94.0%	16,665	9,551	57.3%	799	506	63.3%
-----	-----	-----	-------	--------	-------	-------	-----	-----	-------

ii) 健康診断再検査者

項 目	学 群 生				大 学 院 生				研 究 生 等				合 計				
	対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		
			要 治 療	経 過 観 察													
胸部エックス線	11	11	0	3	8	8	0	3	5	5	0	2	24	24	0	8	
血 圧	2	1	0	2	4	3	0	3	0	0	0	0	6	4	0	5	
尿	蛋 白	61	58	0	1	15	11	1	1	5	5	0	1	81	74	1	3
	糖	8	8	0	2	17	16	1	3	2	2	0	1	27	26	1	6
内 科 所 見	17	17	1	5	10	10	0	3	1	1	0	0	28	28	1	8	
心 電 図	40	39	0	11	/	/	/	/	/	/	/	/	40	39	0	11	
計	139	134	1	24	54	48	2	13	13	13	0	4	206	195	3	41	

項 目	学 群 生				大 学 院 生				研 究 生 等				合 計			
	対 象 者 数	受 検 者 数	結 果													
			継 続	終 了												
こころの健康	497	47	30	17	298	36	21	15	42	6	2	4	837	89	53	36

(注) 胸部エックス線検査対象者は、学群1年生、大学院1年生、および実習等で健康診断証明書が必要な学生である。

(注) 心電図検査対象者は、学群新入生および、体育専門学群生全員である。

(注) 結果：異常なしは、受検者数 - (要治療 + 経過観察)である。

2) 特殊健康診断

i) 電離放射線健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果			
				異常なし	要観察	要精密	要医療
初心者（5月）	90	89	1	57	26	5	1
定期（5月）	150	135	0	103	31	1	0
初心者（7月）	24	19	0	15	3	1	0
初心者（11月）	17	16	0	8	6	2	0
定期（11月）	218	195	0	70	27	3	0
令和7年 初心者（3月）	32	29	0	18	8	3	0
合 計	531	483	1	271	101	15	1

ii) 有機溶剤健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）

※ R3 ～学生は対象外となり実施していません

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果			
				異常なし	要観察	要精密	要医療
5月							
11月							
合 計							

(注) 2021年度より学生の有機溶剤健康診断対象者及び対象物質を変更した。

iii) 特定化学物質健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）

※ R3 ～学生は対象外となり実施していません

実施月	対象数	受診数	要再検数	結 果			
				異常なし	要観察	要精密	要医療
5月							
11月							
合 計							

(注) 2021年度より学生の特定化学物質健康診断対象者及び対象物質を変更した。

8. 職 員 健 康 診 断

1) 一般健康診断

i) 定期健康診断受診者数及び受診率

(令和6年10月1日在職者, 非常勤職員: 週20時間以上の勤務者)

事業場	対象者数	受診者数	受診率
大学本部等事業場	3,150	2,890	91.7%
附属病院事業場	2,719	2,554	93.9%
東京キャンパス事業場	154	130	84.4%
附属小学校事業場	47	44	93.6%
附属中学校事業場	34	33	97.1%
附属高等学校事業場	49	45	91.8%
附属駒場中学校・ 附属駒場高等学校事業場	50	46	92%
附属視覚特別支援学校事業場	112	108	96.4%
附属聴覚特別支援学校事業場	100	100	100%
附属大塚特別支援学校事業場	41	39	95.1%
附属桐が丘特別支援学校事業場	77	76	98.7%
附属坂戸高等学校事業場	55	49	89.1%
附属久里浜特別支援学校事業場	43	42	97.7%
マレーシア校事業場	20	18	90.0%
計	6,651	6,174	92.8%
(令和5年度)	6,514	6,124	94.0%

(令和7年1月31日までの集計結果)

健康診断実施日 筑波地区: 令和6年5月27日～6月5日(7日間)
 令和6年11月5日～11月8日(3日間)
 東京地区: 令和6年6月19日～6月21日(2.5日間)
 令和6年11月22日(1日間)
 附属坂戸高等学校事業場, 附属久里浜養護学校事業場, その他の遠隔地では別日程で実施。人間ドックや他の医療機関等の結果報告を含む。

ii) 事業場ごとの有所見者数及び有所見率

事業場	受診者数	有所見者数 ^注 (要観察・要精密・要医療)		医療機関受診が 必要な者の数 (要精密・要医療)	
		数	率	数	率
大学本部等事業場	2,890	2,661	92.1%	956	33.1%
附属病院事業場	2,554	2,145	84.0%	591	23.1%
東京キャンパス事業場	130	121	93.1%	50	38.5%
附属小学校事業場	44	37	84.1%	10	22.7%
附属中学校事業場	33	29	87.9%	7	21.2%
附属高等学校事業場	45	44	97.8%	9	20.0%
附属駒場中・高等学校事業場	46	44	95.7%	12	26.1%
附属視覚特別支援学校事業場	108	92	85.2%	31	28.7%
附属聴覚特別支援学校事業場	100	79	79.0%	19	19.0%
附属大塚特別支援学校事業場	39	34	87.2%	16	41.0%
附属桐が丘特別支援学校事業場	76	67	88.2%	18	23.7%
附属坂戸高等学校事業場	49	39	79.6%	9	18.4%
附属久里浜特別支援学校事業場	42	35	83.3%	12	28.6%
マレーシア校事業場	18	17	94.4%	7	38.9%
合 計	6,174	5,444	88.2%	1,747	28.3%

(注) 1 つ以上所見を有する者の数。

iii) 項目別有所見者数及び有所見率

項目	春			秋		
	実施者数	有所見者数	有所見率	実施者数	有所見者数	有所見率
聴力 1000Hz	3,333	92	2.8%	470	34	7.2%
聴力 4000Hz	3,333	120	3.6%	471	15	3.2%
聴力 (会話法)	2,276	5	0.2%	450	3	0.7%
胸部エックス線	5,537	574	10.4%	543	90	16.6%
喀痰検査	0	0		0	0	
血圧	5,621	1,076	19.1%	928	228	24.6%
貧血	5,606	1,432	25.5%	558	153	27.4%
肝	5,606	1191	21.2%	565	157	27.8%
脂質	5,606	2,780	49.6%	566	302	53.4%
血糖	5,604	2642	47.1%	567	264	46.6%
尿 (糖)	5,614	140	2.5%	923	45	4.9%
尿 (蛋白)	5,591	54	1.0%	924	26	2.8%
心電図	3,836	1001	26.1%	483	137	28.4%

iv) 年間の有所見者数

(秋期には今年度 2 回目の受診者も含む (業務により年 2 回の受診が必要))

健診時期	受診者数	受診率	有所見者数 ^注 (要観察・要精密・要医療)	医療機関受診が必要な者の数 (要精密・要医療)
春	5,621	84.90%	4,679	1,667
秋	940	60.30%	558	183
合計	6,561	80.20%	5,237	1,850

(注) 1 つ以上所見を有する者の数。

v) 特定業務従事者の健康診断

業務		高熱	低温	放射線	粉じん	異常気圧	振動	重量物
人数	春	0	2	150	0	6	0	0
	秋	0	2	144	0	4	1	0
業務		騒音	坑内	深夜	酸・アルカリ	有害物ガス	病原体汚染	その他
人数	春	2	0	461	0	75	15	0
	秋	2	0	141	0	64	15	0

(注) 受診者のみ。2 つ以上の業務に該当するものについては、主として従事する業務。

2) 特殊健康診断

i) 電離放射線健康診断

実施月	従事者数	実施者数	眼科医による眼の検査	業務に伴う有所見者数
5月(初心者)	10	10		
5月	673	649	0	0
7月(初心者)	3	3		
11月(初心者)	7	5		
11月	672	612	0	0
令和7年3月 (初心者)	8	8		
合計	1,373	1,287	0	0

(注1) 実施月のうち5月、11月以外は、新規に放射線作業に従事するために講習を受けた者のみの健康診断である。

(注2) 前年1年間に眼の水晶体に受けた等価線量が20mSvを超えており、今年度も超えるおそれのある者の眼の検査は、眼科医により実施。

ii) 有機溶剤健康診断

実施月	従事者数	実施者数	業務に伴う有所見者数
5月	74	66	0
11月	83	69	0
合計	157	135	0

iii) 特定化学物質健康診断

実施月	従事者数	実施者数	業務に伴う有所見者数
5月	51	47	0
11月	69	56	0
合計	120	103	0

iv) 高気圧業務健康診断

実施月	従事者数	実施者数	業務に伴う有所見者数
5月	6	6	0
11月	4	4	0
合計	10	10	0

3) 事後措置

i) 受診勧奨及び健康相談

健診後の対応	件数
通知送付	754
電話	88
メール	9
面談	38
合計	889

ii) 医師の意見

就業上配慮が必要と思われ、産業医から所属部署へ報告した人数	0
-------------------------------	---

4) がん検診

i) 胃造影検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要精密数
筑波地区	3,389	39	1.2%	0
東京地区	563	21	3.7%	0
合 計	3,952	60	1.5%	0

(注) 対象は、40才以上の常勤職員及び週20時間以上勤務の非常勤職員。希望者。

ii) 便潜血反応検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要精密数
筑波地区	3,368	396	11.8%	27
東京地区	546	126	23.1%	1
合 計	3,914	522	13.3%	28

(注) 対象は、40才以上の常勤職員及び週20時間以上勤務の非常勤職員。希望者。

iii) P S A検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要精密数
筑波地区	474	33	7.0%	3
東京地区	89	11	12.4%	0
合 計	563	44	7.8%	3

(注) 対象は、50・55・60・65歳の常勤職員及び週20時間以上勤務の非常勤職員。希望者。

9. 保健管理センター利用状況

1) 健康相談月別利用状況

i) 学生内科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学 群 生	18	68	83	51	19	21	139	148	122	33	24	21	747
大 学 院 生	12	42	25	28	15	22	80	74	60	26	16	25	425
研 究 生 等	5	7	9	11	1	3	11	12	11	6	4	2	82
合 計	35	117	117	90	35	46	230	234	193	65	44	48	1,254

ii) 学生整形外科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学 群 生	21	36	50	29	20	17	22	14	25	5	10	14	263
大 学 院 生	7	9	8	6	16	5	5	9	5	9	10	4	93
研 究 生 等	0	1	3	4	1	0	0	3	2	1	1	1	17
合 計	28	46	61	39	37	22	27	26	32	15	21	19	373

iii) 学生外科処置・健康相談受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学 群 生	1	6	8	6	1	1	6	5	2	1	2	0	39
大 学 院 生	0	0	1	2	0	0	4	0	1	1	0	1	10
研 究 生 等	2	2	1	0	1	1	3	1	0	0	1	1	13
合 計	3	8	10	8	2	2	13	6	3	2	3	2	62

(注) 外科処置・健康相談は看護師が対応している。

iv) 学生精神科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学 群 生	58	68	77	110	79	66	118	84	122	98	86	101	1,067
大 学 院 生	53	60	63	78	52	47	88	63	66	72	55	68	765
研 究 生 等	1	2	2	3	3	1	2	2	3	5	3	3	30
合 計	112	130	142	191	134	114	208	149	191	175	144	172	1,862

v) 職員・その他

区分/ 科別内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本 学 職 員	2	15	9	14	8	6	185	163	76	6	11	15	510
そ の 他 の 外 来 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合 計	2	15	9	14	8	6	185	163	76	6	11	16	511

内 科	2	15	6	13	7	6	184	160	74	5	7	8	487
整 形 外 科	0	0	1	1	1	0	1	2	2	1	3	5	17
精 神 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
外 科 処 置	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	2	6

(注) その他の外来者とは、本学校内における公開講座、合宿の参加者、見学者などである。

(注) 精神科は、急患対応のみである。

vi) 産業医面談

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本 学 職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	5

2) 診療収入等

科別内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(円)
内科	41,200	71,400	91,500	92,800	44,500	65,600	113,500	67,200	84,900	75,900	68,900	72,600	890,000
整形外科	29,900	51,600	71,700	43,600	38,500	26,000	28,900	31,500	31,600	20,100	29,300	25,500	428,200
精神科	201,500	223,000	230,000	306,000	226,500	205,000	372,500	267,000	326,500	322,000	270,000	322,000	3,272,000
その他	2,000	0	4,500	14,000	6,000	0	953,500	987,000	561,500	5,000	5,000	15,000	2,553,500
合計(円)	274,600	346,000	397,700	456,400	315,500	296,600	1,468,400	1,352,700	1,004,500	423,000	373,200	435,100	7,143,700

(注) 診療収入等には、診療費、薬剤費、診断書等が含まれる。

(注) その他には、診察外の診断書、予防接種等が含まれる。

参考：前年度(2023.4～2024.3)の診療収入等

科別内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(円)
内科	30,600	84,800	101,200	70,700	43,800	37,500	120,400	66,800	78,300	60,200	74,600	58,700	827,600
整形外科	9,300	43,600	68,400	37,700	41,200	46,400	36,300	33,000	37,500	29,500	38,500	32,000	453,400
精神科	228,000	278,000	274,000	283,000	232,000	247,000	341,000	243,000	350,000	276,000	307,000	279,000	3,338,000
その他	4,000	6,000	4,000	10,000	2,000	3,000	1,089,000	1,279,000	70,500	2,500	8,000	0	2,478,000
合計(円)	271,900	412,400	447,600	401,400	319,000	333,900	1,586,700	1,621,800	536,300	368,200	428,100	369,700	7,097,000

10. そ の 他

1) インフルエンザワクチン接種

対 象	接 種 数
学 生	431
職 員	400
計	831

2) 臨床検査実施数

月	血 液	尿	心電図	超音波検査	腸内細菌検査	その他	合 計
4	3	5	2	1		1	12
5	16	30	34	2		11	93
6	6	19	39	1		6	71
7	3	5	14	2	1	1	26
8	6	7	1		1	1	16
9	3	9	4			8	24
10	4	24	4	1		9	42
11	2	7	7	1	1	2	20
12	4	5	2	1		2	14
1	6	7	7			4	24
2	7	12	12	1		7	39
3	12	20	15	3	0	17	67
合 計	72	150	141	13	3	69	448

3) エックス線写真撮影件数

区 分	学 生	職 員	合 計
月	件 数	件 数	件 数
4	20	0	20
5	47	12	59
6	62	3	65
7	38	2	40
8	27	1	28
9	29	1	30
10	42	1	43
11	34	2	36
12	30	2	32
1	29	3	32
2	35	5	40
3	25	7	32
合 計	418	39	457
学生定期健康診断撮影 7,504名			
職員定期健康診断撮影 5,894名			

4) 心理検査実施数

月	実 施 数
4	1
5	1
6	
7	3
8	3
9	1
10	1
11	1
12	1
1	4
2	1
3	
合 計	17

5) 処方箋発行枚数

月	発行数
令和6年4月	117
5月	169
6月	170
7月	189
8月	130
9月	117
10月	223
11月	170
12月	202
令和7年1月	187
2月	148
3月	155
合計	1,977

6) 外部診療機関紹介状況

区分	科分類					
	内 科	整形外科	精 神 科	救急外来	そ の 他	合 計
学 群 生	19	12	38	1	16	86
大 学 院 生	13	6	27	0	13	59
研 究 生	12	0	2	1	2	17
学 生 合 計	44	18	67	2	31	162
職 員・そ の 他	9	1	3	0	5	18
合 計	53	19	70	2	36	180

(注) 区分のその他とは、本学校内における公開講座、合宿の参加者、見学者などである。

7) 健康診断証明書等発行数

i) 無償診断書等

	センター発行	自動証明書発行 装置発行	合計
学 群 生	5	1,588	1,593
大 学 院 生	12	1,354	1,366
研 究 生	3		3
職 員	30		30
そ の 他	4		4
合 計	54	2,942	2,996

(注) 自動証明発行装置は、学生定型書式のみ。
 その他は、学振・特別研究員等である。

ii) 有償診断書等

	計
学 群 生	106
大 学 院 生	66
研 究 生	4
学生合計	176

職 員・そ の 他	19
-----------	----

診断書：診療に関わるものや有償健康診断を含む

8) 救護活動

実施期間	日数	行事等名称	救護班設置場所	利用 件数
4/5	1	入学式, 大学院入学式	保健管理センター	0
4/8	1	英語プレイスメントテスト	保健管理センター	0
5/18, 5/19	2	春季スポーツデー	保健管理センター	6
7/5, 7/8, 7/9	3	令和7年度大学院入学試験(7月実施)	保健管理センター	0
7/13, 7/14	2	令和7年度学群編入学試験	保健管理センター	1
7/26 ~ 7/28, 8/3	4	大学説明会(オープンキャンパス)	保健管理センター 春日キャンパス救護室	1
7/30	1	太子町中学生オープンキャンパス	保健管理センター	0
8/20 ~ 8/23, 8/26 ~ 8/28	7	令和7年度大学院入学試験(8月実施)	保健管理センター	0
8/22	1	国際バカロレア特別入学試験(7月募集) 海外教育プログラム特別入試	保健管理センター	0
10/9 ~ 10/11, 10/15, 10/17, 10/22	6	令和7年度アドミッションセンター入試, 国際 科学オリンピック特別入試, 研究型人材入試	保健管理センター	0
10/10 ~ 10/11, 10/15 ~ 10/18	7	令和7年度大学院入学試験(10月実施)	保健管理センター	0
11/2 ~ 4	3	学園祭	保健管理センター	7
11/16, 17	2	秋季スポーツデー	保健管理センター	2
11/28, 29	2	令和7年度推薦入試	保健管理センター 体芸試験場救護室	0
12/13	1	常陸大宮市中学生オープンキャンパス	保健管理センター	0
2025/1/18, 19	2	大学入学共通テスト	保健管理センター 各入試会場救護室	15
1/28 ~ 1/31, 2/3	5	大学院入試(2月期)・学位プログラム	保健管理センター	0
2/25, 26	2	個別学力検査等(前期日程)・学群編入学試験	保健管理センター 各入試会場救護室	9
3/12	1	個別学力検査等(後期日程)	保健管理センター	0
3/25	1	卒業式, 大学院学位記授与式	保健管理センター	0
計				41

9) 救急箱貸出数

月	貸出数
令和6年4月	0
5月	1
6月	0
7月	2
8月	2
9月	0
10月	1
11月	5
12月	0
令和7年1月	7
2月	7
3月	3
合計	28

10) 医療安全教育研修

第1回 診療の安全に関する研修

1. 対 象 筑波大学附属病院職員等
2. 期 日 令和6年7月
3. 場 所 学内専用システム manaba
4. 参加人数 22名
5. 担 当 附属病院臨床医療管理部外
6. 内 容 医療事故防止に関する基本的事項
 カスタマーハラスメント対応
 医療者も患者さんも安心安全の現場へ向けて

第2回 診療の安全に関する研修

1. 対 象 筑波大学附属病院職員等
2. 期 日 令和6年12月
3. 場 所 学内専用システム manaba
4. 参加人数 21名
5. 担 当 附属病院臨床医療管理部外
6. 内 容 コードステータスをどのように確認するか

11. 研究業績

<原著論文>

1. Mase K, Saito C, Usui J, Arimura Y, Nitta K, Wada T, Makino H, Muso E, Hirawa N, Kobayashi M, Yumura W, Fujimoto S, Nakagawa N, Ito T, Yuzawa Y, Matsuo S, Yamagata K: The usefulness of serum monitoring of mizoribine in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. 21th International Vasculitis Workshop Abstracts Book, p273, 2024 年 4 月
2. Tsunoda R, Kume K, Kagawa R, Sanuki M, Kitagawa H, Mase K, Yamagata K: Machine-learning-based identification of patients with IgA nephropathy using a computerized medical billing database. PLoS One 2024 Dec5; 19(12): e0312915
3. Usui J, Hirayama K, Kobayashi M, Suzuki S, Ebihara I, Nishiki K, Mase K, Hirayama A, Saito C, Goto M, Koyama A, Yamagata K: Randomized Prospective Controlled Open-labeled Trial of Cyclosporine with/without Low-dose Oral Corticosteroids in Idiopathic Membranous Nephropathy in Adults with Nephrotic Syndrome. Intern Med. 2025 Feb 22. doi: 10.2169/internalmedicine.4803-24. Online ahead of print.
4. Kojo K, Mase K, Suzuki H, Arita M, Yokoyama C, Yamada Y and Kawasaki A: Incidental diagnosis of Fabry disease by detecting mulberry bodies in a Bangladeshi male with infertility and residing in Japan: a case report highlighting clinical and economic challenges. J Rural Med 2025; 20(3): 233-237
5. Yamamoto M, Yamada Y, Sadahiro T, Sato K, Machino-Ohtsuka T, Murakoshi N, Ieda M, Ishizu T. Diagnostic Value of Combined Light and Electron Microscopic Examination in Endomyocardial Biopsy in Patients with Cardiac Amyloidosis. Can J Cardiol. 2025 Feb; 41(2): 244-253. doi: 10.1016/j.cjca.2024.11.007. Epub 2024 Nov 13. PMID: 39542397
6. Li S, Tajiri K, Yuan Z, Murakata Y, Song Z, Mizuno S, Xu D, Murakoshi N. 4E-BP3 deficiency impairs dendritic cell activation and CD4+ T cell differentiation and attenuates α -myosin-specific T cell-mediated myocarditis in mice. Basic Res Cardiol. 2025 Feb; 120(1): 225-240. doi: 10.1007/s00395-024-01089-3. Epub 2024 Nov 9. PMID: 39516410
7. Nakano K, Yamamoto M, Yamada Y, Nakatsukasa T, Kawamatsu N, Sato K, Machino-Ohtsuka T, Murakoshi N, Ishizu T. Mitochondrial Structural Abnormalities and Cardiac Reverse Remodeling in Patients With Systolic Dysfunction. Circ J. 2024 Dec 25; 89(1): 101-108. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0451. Epub 2024 Oct 5. PMID: 39370292
8. Li S, Xu D, Murakoshi N, Yuan Z, Imaoka T, Tajiri K. Autoantibody profiling of patients with immune checkpoint inhibitor-associated myocarditis: a pilot study. Front Immunol. 2024 Sep 11; 15: 1423622. doi: 10.3389/fimmu.2024.1423622. eCollection 2024. PMID: 39324142
9. Hiraya D, Murakoshi N, Igarashi M, Xu D, Ishizu T. Genetic testing and human leukocyte antigen in patients with hypertrophic cardiomyopathy and connective tissue diseases. Front Genet. 2024 Aug 6; 15: 1432670. doi: 10.3389/fgene.2024.1432670. eCollection 2024. PMID: 39165751
10. Mori H, Xu D, Shimoda Y, Yuan Z, Murakata Y, Xi B, Sato K, Yamamoto M, Tajiri K, Ishizu T, Ieda M, Murakoshi N. Metabolic Remodeling and Calcium Handling Abnormality in Induced Pluripotent

- Stem Cell-Derived Cardiomyocytes in Dilated Phase of Hypertrophic Cardiomyopathy with MYBPC3 Frameshift Mutation. *Sci Rep.* 2024 Jul 4; 14(1): 15422. doi: 10.1038/s41598-024-62530-0. PMID: 38965264
11. Okabe Y, Murakoshi N, Kurebayashi N, Inoue H, Ito Y, Murayama T, Miyoshi C, Funato H, Ishii K, Xu D, Tajiri K, Qin R, Aonuma K, Murakata Y, Song Z, Wakana S, Yokoyama U, Sakurai T, Aonuma K, Ieda M, Yanagisawa M. An inherited life-threatening arrhythmia model established by screening randomly mutagenized mice. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2024 Apr 23; 121(17): e2218204121. doi: 10.1073/pnas.2218204121. Epub 2024 Apr 15. PMID: 38621141
 12. Inoue K, Machino-Ohtsuka T, Nakazawa Y, Iida N, Sasamura R, Bando H, Chiba S, Tasaka N, Ishizu T, Murakoshi N, Xu D, Sekine I, Tajiri K. Early Detection and Prediction of Anthracycline-Induced Cardiotoxicity - A Prospective Cohort Study. *Circ J.* 2024 Apr 25; 88(5): 751-759. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0065. Epub 2024 Mar 8. PMID: 38462534
 13. Asanuma S, Miura K, Funayama T, Koda M, Yamazaki M. Early Recurrence of Thoracic Ossification of the Ligamentum Flavum After Posterior Decompression Surgery: A Case Report. *Cureus.* 2024; 16(5): e59429. doi: 10.7759/cureus.59429
 14. Wataya K, Tachikawa H, Nemoto K, Sasahara S, Oi Y, Doki S, Hori D, Hirai K, Takahashi S, Arai T. Association Between Occupational Stress and Mental Health in Healthcare Workers During the Coronavirus Pandemic in 2019. *Cureus.* 2025 Mar 22; 17(3): e81007. doi: 10.7759/cureus.81007. eCollection 2025 Mar.
 15. Tamura K, Ogawa T, Saito T, Shiratori Y, Yaguchi C, Midorikawa H, Aiba M, Sugawara D, Hori T, Tachikawa H. The hikikomori population varies significantly depending on the definition used: Evidence from a survey in Kasama, Ibaraki, Japan. *Psychiatry and Clinical Neurosciences.* 2025 Feb 7. doi.org/10.1111/pcn.13783.
 16. Ota M, Nemoto K, Hori H, Ishida I, Sato S, Asada T, Kunugi H, Arai T. Correlation Between Dietary Nutrition and Glymphatic System Activity in Healthy Participants. *Cureus.* 2025 Jan 22; 17(1): e77860. doi: 10.7759/cureus.77860. eCollection 2025 Jan.
 17. Nemoto M, Nemoto K, Sasai H, Ota M, Haneda M, Sekine A, Arai T. Emotional Response to Various Exercise Types in Patients With Mental Disorders. *Cureus.* 2024 Dec 9; 16(12): e75371. doi: 10.7759/cureus.75371. eCollection 2024 Dec. PMID: 39781132 PMCID: PMC11710867 DOI: 10.7759/cureus.75371
 18. Nemoto M, Nemoto K, Sasai H, Higashi S, Ota M, Arai T. Long-Term Multimodal Exercise Intervention for Patients with Frontotemporal Lobar Degeneration: Feasibility and Preliminary Outcomes. *Dement Geriatr Cogn Dis Extra.* 2024 Dec 9; 15(1): 19-29. doi: 10.1159/000542994.
 19. Yoon J, Ota K, Arai T, Nemoto M, Nemoto K, Ota M, Miyashita M, Okura T. Evaluation of preclinical Alzheimer's dementia using plantar pressure regulation ability. *Innovation in Aging, Volume 8, Issue Supplement, Dec 2024, Page 1240*, <https://doi.org/10.1093/geroni/igae098.3967>
 20. Ishikawa A, Tachikawa H, Midorikawa H, Tabuchi T. Exploring the relationship between personal and

- cohabiting family members' COVID-19 infection experiences and fear of COVID-19: a longitudinal study based on the Japan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS). *BMJ Open*. 2024 Dec 20; 14(12): e087595. doi: 10.1136/bmjopen-2024-087595.
21. Enokida T, Hattori K, Okabe K, Noda T, Ota M, Sato N, Ogawa S, Tatsumi M, Hoshino M, Kunugi H, Nakagome K. Possible association of elevated CSF IL-6 levels with anxiety and frustration in psychiatric disorders. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2024 Dec; 78(12): 792-799. doi: 10.1111/pcn.13743.
 22. Ota M, Maki H, Takahashi Y, Shigemoto Y, Kimura Y, Matsuda H, Sato N. Relationships between neuroimaging biomarkers and glymphatic-system activity in dementia with Lewy bodies. *Neurosci Lett*. 2024 Nov 1; 842: 137995. doi: 10.1016/j.neulet.2024.137995.
 23. 小川貴史, 太刀川弘和, 白鳥裕貴, 中村哲也, 和智萌, 東理美沙, 矢口知絵, 斎藤環, 堀孝文, 新井哲明: 県立精神科病院と自治体が共同して実施したひきこもり自立支援事業に関する評価 日社精医誌 33 : 369-379, 2024
 24. Wataya K, Ujihara M, Kawashima Y, Sasahara S, Takahashi S, Matsuura A, Lebowitz A, Tachikawa H. Development of the Japanese Version of Rushton Moral Resilience Scale (RMRS) for Healthcare Professionals: Assessing Reliability and Validity. *J of Nursing Management*. 2024, ID 7683163, doi.org/10.1155/2024/7683163
 25. 沼田悠梨子, 太田深秀, 北畠綾子, 竹内具子, 翠川晴彦, 田村昌士, 高橋卓巳, 根本清貴, 新井哲明: 「アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症の視覚性課題の特徴について Rey の複雑図形の模写, 直後再生, 30 分後再生の結果から」 老年精神医学雑誌 35 (増刊Ⅱ) : 243, 2024.7
 26. Sato H, Ota M, Kitabatake A, Numata Y, Takahashi T, Tamura M, Nemoto K, Arai T. Characteristics of Alzheimer's Disease and Mild Cognitive Impairment Influenced by the Time of Onset. *Dement Geriatr Cogn Dis Extra*. 2024 Sep 9; 14(1): 81-88. doi: 10.1159/000541092. eCollection 2024 Jan-Dec.
 27. Enokida T, Hattori K, Ota M, Tatsumi M, Hidese S, Sato N, Hoshino M, Kunugi H. Correlation between myelin basic protein levels in cerebrospinal fluid and motor speed in patients with schizophrenia. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2024 Sep; 44(3): 663-670. doi: 10.1002/npr2.12471.
 28. Uchida K, Meno K, Korenaga T, Liu S, Suzuki H, Baba Y, Tagata C, Araki Y, Tsunemi S, Aso K, Inagaki S, Nakagawa S, Kobayashi M, Kakuma T, Asada T, Ota M, Takihara T, Arai T. Effect of matcha green tea on cognitive functions and sleep quality in older adults with cognitive decline: A randomized controlled study over 12 months. *PLoS One*. 2024 Aug 30; 19(8): e0309287. doi: 10.1371/journal.pone.0309287. eCollection 2024. PMID: 39213264 PMCID: PMC11364242 DOI: 10.1371/journal.pone.0309287
 29. Nemoto M, Yamada Y, Kobayashi M, Shinkawa K, Ota M, Nemoto K, Arai T. An exploratory analysis of the associations between accelerometer-derived measures and future health-related changes in older adults: preliminary results on prospective cohort study. 2024 IEEE International Conference on Digital Health (ICDH). 2024 July 07-13. DOI: 10.1109/ICDH62654.2024.00015
 30. Taniguchi Y, Tamiya N, Iwagami M, Yamagishi K, Miyawaki A, Masuda R, Kihara T, Komiyama J, Tachikawa H, Takahashi H, Iso H. Different trends in suicide rates among foreign residents in Japan and Japanese citizens during the COVID-19 pandemic. *Int J Equity Health*. 2024 Jul 31; 23(1): 150. doi:

10.1186/s12939-024-02234-z.

31. Yamada Y, Kobayashi M, Shinkawa K, Nemoto M, Ota M, Nemoto K, Arai T. Digital Measures of Drawing Process to Predict Multiple Cognitive and Gait Measures in Older Adults. 2024 IEEE International Conference on Digital Health (ICDH).
32. Nakaya M, Sato N, Suzuki F, Maikusa N, Matsuda H, Kimura Y, Shigemoto Y, Chiba E, Ota M, Yamamura T, Sato W, Okamoto T, Abe O. Multimodal imaging analyses in neuromyelitis optica spectrum disorder with or without visual disturbance. *J Neurol Sci.* 2024 Jul 15; 462: 123090. doi: 10.1016/j.jns.2024.123090.
33. Kobayashi M, Yamada Y, Shinkawa K, Nemoto M, Ota M, Nemoto K, Arai T. Vocal expression of emotions discriminates dementia with Lewy bodies from Alzheimer's disease. *Alzheimers Dement (Amst).* 2024 May 8; 16(2): e12594. doi: 10.1002/dad2.12594.
34. Ota M, Noda T, Sato N, Okabe K, Nakazawa K, Oshio Y, Nakagome K. Common Relationship Between Causality Orientation and the Prefrontal Region in Psychiatric Disorders as Revealed by Diffusional Kurtosis Imaging. *Cureus.* 2024 May 26; 16(5): e61138. doi: 10.7759/cureus.61138.
35. Shiratori Y, Ogawa T, Ota M, Sodeyama N, Arai T, Tachikawa H. Comparison of Depressive Symptoms between International and Domestic Students in a Japanese University: Pre- and PostCOVID-19 Pandemic. *Brain Sci.* 2024 Apr 29; 14(5): 447. doi: 10.3390/brainsci14050447.
36. Yamada Y, Shinkawa K, Kobayashi M, Nemoto M, Ota M, Nemoto K, Arai T. Distinct eye movement patterns to complex scenes in Alzheimer's disease and Lewy body disease. *Front Neurosci.* 2024 Apr 5; 18: 1333894. doi: 10.3389/fnins.2024.1333894. eCollection 2024.
37. Kushibiki N, Aiba M, Midorikawa H, Komura K, Sugawara D, Shiratori Y, Kawakami N, Ogawa T, Yaguchi C, Tachikawa H. How do social networks, perception of social isolation, and loneliness affect depressive symptoms among Japanese adults? *PLoS One.* 2024 Apr 24; 19(4): e0300401. doi: 10.1371/journal.pone.0300401. eCollection 2024
38. Nakaya M, Sato N, Matsuda H, Maikusa N, Ota M, Shigemoto Y, Sone D, Yamao T, Kimura Y, Tsukamoto T, Yokoi Y, Sakata M, Abe O. Assessment of Gray Matter Microstructural Alterations in Alzheimer's Disease by Free Water Imaging. *J Alzheimers Dis.* 2024; 99(4): 1441-1453. doi: 10.3233/JAD-231416.

<学会発表>

1. Mase K, Saito C, Usui J, Arimura Y, Nitta K, Wada T, Makino H, Muso E, Hirawa N, Kobayashi M, Yumura W, Fujimoto S, Nakagawa N, Ito T, Yuzawa Y, Matsuo S, Yamagata K: The usefulness of serum monitoring of mizoribine in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. 21th International Vasculitis Workshop (Barcelona), 2024年4月
2. 貴志孝洋, 間瀬かおり, 中村修: 検知管を用いたクロロピクリンのリスクアセスメント及び健康診断(第4項健診)の事例. 第97回日本産業衛生学会(広島), 2024年5月
3. 高柳ひかり, 臼井俊明, 斎藤知栄, 中島健太郎, 原田拓也, 秋山知希, 清水達也, 岡田絵里, 角田亮也, 間瀬かおり, 森戸直記, 臼井丈一, 山縣邦弘, 松本功: 抗MDA5抗体陽性の臨床的無筋

- 症性皮膚筋炎に合併した急速進行性間質性肺炎に対する単純血漿交換の検討. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会 (横浜), 2024 年 6 月
4. 中島修平, 角田亮也, 臼井丈一, 甲斐平康, 臼井俊明, 間瀬かおり, 森戸直記, 斎藤知栄, 山縣邦弘: イヌリンクリアランスを用いた各種 eGFR 計算式の日本人における妥当性の研究. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 (横浜), 2024 年 6 月
 5. 上野珠美, 原田拓也, 中島健太郎, 清水達也, 角田亮也, 臼井俊明, 森戸直記, 間瀬かおり, 斎藤知栄, 臼井丈一, 川西邦夫, 山縣邦弘: 血漿交換 +PSL+AVA により透析離脱後も長期に腎機能を維持できた ANCA 関連血管炎の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 (宇都宮), 2024 年 9 月
 6. 米野友一郎, 臼井俊明, 塚田剛, 中島健太郎, 原田拓也, 清水達也, 角田亮也, 森戸直記, 間瀬かおり, 臼井丈一, 斎藤知栄, 山縣邦弘: 多中心性キャスルマン病に併発した IgA 腎症に対するトシリズマブでの治療経験. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 (宇都宮), 2024 年 9 月
 7. 黒河周, 臼井俊明, 中島健太郎, 原田拓也, 清水達也, 角田亮也, 森戸直記, 間瀬かおり, 斎藤知栄, 臼井丈一, 鈴木寿人, 野口恵美子, 山縣邦弘: 初診時に緊急血液透析を要した, 遺伝子検査で診断した Senior-Loken 症候群の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 (宇都宮), 2024 年 9 月
 8. 松田哲, 臼井俊明, 原田拓也, 清水達也, 角田亮也, 間瀬かおり, 森戸直記, 斎藤知栄, 臼井丈一, 山縣邦弘: 重症 COPD 併存の多発血管炎性肉芽腫症に対してリツキシマブからアザチオプリンへ寛解維持療法を変更した 1 例. 第 698 回日本内科学会関東地方会 (東京), 2024 年 9 月
 9. Nakajima Shuhei, Tsunoda Ryoya, Nakajima Kentaro, Harada Takuya, Shimizu Tatsuya, Usui Toshiaki, Morito Naoki, Mase Kaori, Usui Joichi, Saito Chie, Yamagata Kunihiro: More Accurate eGFR Creatinine Calculation Formula for Japanese Patients using Inulin Clearance as a Control. ASN Kidney Week 2024 (San Diego), 2024 年 10 月
 10. 上野珠美, 森戸直記, 清水達也, 角田亮也, 臼井俊明, 間瀬かおり, 甲斐平康, 臼井丈一, 斎藤知栄, 成田さくら, 西田恵子, 阿部春奈, 小島真奈, 濱田洋実, 山縣邦弘: 妊娠中にカルシウム拮抗薬を継続できたことで適切な血圧管理が可能であった高血圧合併妊娠の IgA 腎症の一例. 第 34 回腎と妊娠研究会学術集会 (倉敷), 2025 年 3 月
 11. 黒河周, 臼井俊明, 中島健太郎, 原田拓也, 清水達也, 角田亮也, 森戸直記, 間瀬かおり, 斎藤知栄, 臼井丈一, 山縣邦弘: 尿毒症, 肝硬変, 重度大動脈弁狭窄症, 永続性心房細動に対し多面的な介入を経て ADL の改善が得られた一例. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 (横浜), 2025 年 3 月
 12. 米野友一郎, 臼井俊明, 中島健太郎, 原田拓也, 清水達也, 角田亮也, 森戸直記, 間瀬かおり, 斎藤知栄, 臼井丈一, 山縣邦弘: 多職種介入による腎臓リハビリテーションが有効であった顕微鏡的多発血管炎による脳出血・肺胞出血の一例. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 (横浜), 2025 年 3 月
 13. Miura K. Rod Optimizer for navigated deformity surgery: enhancing efficiency in open procedures. 2024 EUROSPINE, Medacta LUCH WORKSHOP "OPTIMIZING SPINE SURGERY THROUGH

- PERSONALIZED SOLUTIONS,” October 2024, Wien, Austria.
14. Miura K, Kadone H, Asada T, Sakashita K, Sunami T, Koda M, Funayama T, Takahashi H, Noguchi H, Gamada H, Yamazaki M. Sagittal Balance Deterioration during Gait in Adult Spinal Deformity Through Three-dimensional Gait Analysis Synchronized with Electromyography. 2024 EUROSPINE, October 2024, Wien, Austria.
 15. Miura K, Koda M, Funayama T, Takahashi H, Noguchi H, Yamazaki M. The Influence of Preoperative Controlling Nutritional Status on the Occurrence of Major complications following Surgery for degenerative cervical myelopathy: a propensity score matching analysis. 2024 Spine Across the Sea, July 2024, Kauai, Hawaii.
 16. Miura K, Kadone H, Asada T, Sakashita K, Sunami T, Koda M, Funayama T, Takahashi H, Noguchi H, Gamada H, Yamazaki M. Evaluation of Dynamic Spinal Alignment Changes and Compensation Using Three-dimensional Gait Analysis Synchronized with Electromyography for Adult Spinal Deformity. 50th Annual Meeting of the International Society for the Lumbar Spine, May 2024, Milan, Italy.
 17. 三浦紘世, 門根秀樹, 森利雄, 蒲田久典, 野口裕史, 高橋宏, 船山徹, 國府田正雄, 山崎正志. 首下がり症に対するリハビリテーションの工夫～装着型サイボーグ HAL を用いた小経験を踏まえて～. 第 35 回日本運動器科学会, 2024 年 7 月, 宇都宮. シンポジウム「首下がり症の保存療法と工夫と限界」
 18. 三浦紘世, 門根秀樹, 坂下孝太郎, 角南貴大, 蒲田久典, 野口裕史, 高橋宏, 船山徹, 國府田正雄, 山崎正志. 首下がり症候群に対する三次元歩行動作解析を用いた脊椎バランスの定量的評価の試み～最適な脊柱変形治療を目指して～. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会, 2024 年 4 月, 横浜. シンポジウム「やさしい脊柱変形治療を目指して (頰椎)」
 19. 三浦紘世, 門根秀樹, 朝田智之, 坂下孝太郎, 角南貴大, 野口裕史, 高橋宏, 船山徹, 國府田正雄, 山崎正志. 成人脊柱変形治療における三次元歩行動作解析による動的な脊椎バランスの評価. 第 14 回日本成人脊柱変形学会, 2024 年 3 月, 仙台. シンポジウム「成人脊柱変形治療の多面的評価」
 20. 竹尾 摩耶, 許 東洙, 席 彬洋, 石津 智子, 村越 伸行. LMNA 変異を有する拡張型心筋症患者由来 iPS 細胞の樹立と病態解析. 第 10 回日本心筋症研究会. 2024 年 5 月 11 日. 名古屋.
 21. Binyang Xi, Nobuyuki Murakoshi, Dongzhu Xu, Jiaqi Liu, Tao Zheng, Tomoko Ishizu. EIF4EBP1 Deletion Ameliorates Heart Failure Progression After Myocardial Infarction. CVWM2024. 2024/12/7-8, Tokyo.
 22. Jiaqi Liu, Nobuyuki Murakoshi, Dongzhu Xu, Binyang Xi, Ishizu Tomoko. Programmed Cell Death-Ligand 2 deletion ameliorates ischemic heart failure development after myocardial infarction. CVWM2024. 2024/12/7-8, Tokyo.
 23. 竹尾 麻耶, 村越 伸行, 許 東洙, 下田 柚須乃, 石津 智子. LMNA 遺伝子短縮型変異を有する拡張型心筋症患者由来 iPS 細胞の樹立と誘導心筋の解析. 第 47 回日本分子生物学会年会. 2024 年 11 月 27 日～11 月 29 日. 福岡
 24. Binyang Xi, Nobuyuki Murakoshi, Dongzhu Xu, Jiaqi Liu, Tao Zheng, Ishizu Tomoko. EIF4EBP1

- Deletion Ameliorates Ischemic Heart Failure Development After Myocardial Infarction. 第 89 回日本循環器学会学術集会. 2025/3/28-3/30, 横浜.
25. Jiaqi Liu, Nobuyuki Murakoshi, Dongzhu Xu, Binyang Xi, Ishizu Tomoko. Programmed Cell Death-Ligand 2 deficiency improves heart failure after myocardial infarction. 第 89 回日本循環器学会学術集会. 2025/3/28-3/30, 横浜.
 26. 白鳥裕貴, 小川貴史, 田村薫, 翠川晴彦, 矢口知絵, 齋藤環, 菅原大地, 相羽美幸, 川上直秋, 太刀川弘和: 口頭発表 社会的ひきこもりと孤立・孤独, シンポジウム「孤立・孤独社会の行方と予防対策」, 第 43 回日本社会精神医学会, 東京, 2025 年 3 月 14 日
 27. 櫛引夏歩, 菅原大地, 矢口知絵, 石塚里沙, 高木善史, 齋藤真衣子, 青木ケイ, 米澤慎二郎, 柳百合子, 八斗啓悟, 高橋 晶, 相羽美幸, 白鳥裕貴, 川上直秋, 太刀川弘和: 口頭発表 中学生を対象とする社会的孤立・孤独の一次予防のための心理教育プログラムの有用性の検討, 第 43 回日本社会精神医学会, 東京, 2025 年 3 月 14 日
 28. 太刀川弘和: 自殺・メンタルヘルス報道とメディア表現 (招待講演), 共催シンポジウム「うつ病/自殺予防を取り巻く諸問題」, 第 43 回日本社会精神医学会, 東京, 2025 年 3 月 13 日
 29. 中山顕次郎, 根本清貴, 互健二, 遠藤浩信, 根本みゆき, 田村昌士, 太田深秀, 樋口真人, 新井哲明: ポスター「脳形態画像に依存しない Florzolotau 18F PET 画像の半定量化手法の検討」, 第 27 回日本ヒト脳マッピング学会, 東京, 2025 年 3 月 7 日-8 日
 30. 根本みゆき, 根本清貴, 笹井浩行, 太田深秀, 羽田舞子, 関根彩, 新井哲明: ポスター「精神疾患患者における多様な運動種目への感情反応」, 第 26 回日本健康支援学会年次学術大会, 川崎市, 2025 年 3 月 7 日-8 日
 31. 矢口知絵, 太刀川弘和, 高橋晶, 高木善史, 久保達彦, 福生泰久: 地震災害後, 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) はどれくらい生じるのか?, 第 30 回日本災害医学会, 名古屋, 2025 年 3 月 6 日-8 日
 32. 高木善史, 太刀川弘和, 矢口知絵, 高橋晶, 久保達彦, 福生泰久: 令和 6 年能登半島地震における災害メンタルヘルスの特徴, —DPAT 診療記録を用いた過去地震との比較—, 第 30 回日本災害医学会, 名古屋, 2025 年 3 月 6 日-8 日
 33. Yanagi Y, Aoki K, Sugawara D, Hatto K, Kushibiki N, Aiba M, Kawakami N, Shiratori Y, Tachikawa H: ポスター「Effects of individual- and community-level stigma on loneliness: A multilevel analysis」, Society for Personality and Social Psychology 2025, 2025 年 2 月 20 日
 34. Aoki K, Hatto K, Yanagi Y, Sugawara D, Kushibiki N, Aiba M, Kawakami N, Shiratori Y, Tachikawa H: 口頭発表「The effect of psychological flexibility on loneliness: Regression analysis using a curvilinear model」, Society for Personality and Social Psychology 2025, 2025 年 2 月 20 日
 35. 太刀川弘和: 災害精神支援と学生のメンタルヘルス, 第 46 回全国大学メンタルヘルス学会総会 (招待講演), 2024 年 12 月 6 日
 36. 河野慈恵, 小島真奈, 宮本和恵, 堤春香, 東福祥, 西田恵子, 阿部春奈, 眞弓みゆき, 濱田洋実, 佐藤豊実, 根本清貴, 渡部衣美, 安部加奈子, 佐藤晋爾: 「茨城県における周産期メンタルヘルス診療体制の現状調査」 第 46 回茨城医学会産科婦人科分科会 第 196 回茨城産科婦人科学会例

会，茨城，2024年11月30日

37. 松尾真裕子，太刀川弘和：総合病院での自殺企図者の地域連携，地域連携委員会シンポジウム「総合病院精神科と各領域における地域連携」，第37回日本総合病院精神医学会，熊本，2024年11月29日-30日
38. 櫻井祐太，高橋卓巳，関根彩，翠川晴彦，田村昌士，松尾真裕子，高村佳幸，栗山千秋，岡野正和，峰志匡，綿谷恵子，大関武，神谷純子，篠崎まゆみ，太刀川弘和，新井哲明：筑波大学附属病院における精神科リエゾンチームと精神区分特定行為看護師の活動，第37回日本総合病院精神医学会，熊本，2024年11月29日-30日
39. Takahashi S, Yaguchi C, Takagi Y, Kubo T, Fukuo Y, Hirokazu Tachikawa H: Estimating Number of DPATs in the Nankai Trough Earthquake from data of 'cocoro-no-care' in the Great East Japan Earthquake. 15th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (APCDM24), Seoul, Korea, Nov.25-26, 2024
40. 根本みゆき，根本清貴，笹井浩行，東晋二，太田深秀，新井哲明：演者 シンポジウム「若年性認知症の非薬物療法－前頭側頭葉変性症に対する運動療法－」，第43回日本認知症学会学術集会，福島，2024年11月21日-23日
41. 中山顕次郎，根本清貴，互健二，遠藤浩信，根本みゆき，田村昌士，太田深秀，徳田隆彦，樋口真人，新井哲明：ポスター・口頭発表「タウ PET の定量指標 CenTauR と脳血流の関連」，第43回日本認知症学会学術集会，福島，2024年11月21日-23日
42. Jieun Y, Ota K, Arai T, Nemoto M, Nemoto K, Ota M, Shibuya K, Miyashita M, Okura T. Preclinical Alzheimer's Dementia Phase Evaluation Using Plantar Pressure Regulation Ability. Gerontological Society of America (GSA). 2024. Nov 13-16. Seattle. Poster.
43. 太刀川弘和，高橋卓巳，高村佳幸，松尾真裕子，大徳さな子，翠川晴彦，新井哲明：自死を希望し，精神科治療を拒否する喉頭がん患者の1例，-自殺予防の彼岸を考える-，第72回茨城精神医学集団会，水戸，2024年11月3日
44. 太田深秀，白鳥裕貴，袖山紀子，寺門恵美子，太刀川弘和，新井哲明：ポスター「機械学習を用いた大学生のうつサブタイプ分類についての検討」，第62回全国大学保健管理研究集会，神戸，2024年10月16日-17日
45. 菅原大地，櫛引夏歩，柳百合子，相羽美幸，白鳥裕貴，川上直秋，太刀川弘和：ポスター「不適応的パーソナリティ特性と孤独感との関連－短期縦断調査による検討－」，日本パーソナリティ心理学会第33回大会，つくば，2024年10月5日-6日
46. 太刀川弘和，田村昌士：自殺予防から見た病診連携の在り方，シンポジウム「外来精神医療における自殺対策」，第1回日本外来精神医学会学術総会，東京2024年9月23日
47. 太刀川弘和，張賢徳：既遂事例の検討会，第48回日本自殺予防学会総会，埼玉，2024年9月13日-15日
48. 松尾真裕子，翠川晴彦，高橋卓巳，高村佳幸，大徳さな子，岩田直子，浜野淳，井上貴昭，新井哲明，太刀川弘和：筑波大学附属病院に搬送された自殺企図者の特徴，第48回日本自殺予防学会総会，埼玉，2024年9月13日-15日

49. 石塚里沙, 櫛引夏歩, 太刀川弘和: 小中学校における自殺予防に向けた教育の実践と課題, 第48回日本自殺予防学会総会, 埼玉, 2024年9月13日-15日
50. 相羽美幸, 古村健太郎, 川上直秋, 菅原大地, 白鳥裕貴, 櫛引夏歩, 翠川晴彦, 太刀川弘和: ポスター「コロナ禍からコロナ収束後におけるうつ, 社会的孤立, 孤独感, コロナ恐怖の変化- 5時点の全国調査から-」, 第48回日本自殺予防学会総会, 埼玉, 2024年9月13日-15日
51. 齋藤真衣子, 白鳥裕貴, 矢口知絵, 山田典子, 小川貴史, 辛島昌秀, 水挽貴至, 堀孝文, 太刀川弘和: ポスター「精神科病院における自殺企図患者フォローアップ介入事業の再企図例の検討」, 第48回日本自殺予防学会総会, 埼玉, 2024年9月13日-15日
52. 志澤翔太郎, 川上直秋, 荒井崇史, 本田優磨, 相羽美幸, 菅原大地, 白鳥裕貴, 太刀川弘和: ポスター「潜在的な社会的孤立を測定する IAT の開発に向けて」, 日本心理学会第88回大会, 熊本, 2024年9月6日-8日
53. 横田陽生, 川上直秋, 釣木澤朋和, 相羽美幸, 菅原大地, 白鳥裕貴, 太刀川弘和: ポスター「fMRIを用いた社会的排斥と潜在的個人要因の関連の検討-サイバーボール課題, 潜在連合テストを用いて-」, 日本心理学会第88回大会, 熊本, 2024年9月6日-8日
54. 北畠綾子, 太田深秀, 越部裕子, 江湖山さおり, 根本清貴, 新井哲明: ポスター「前頭側頭葉変性症やアルツハイマー型認知症で認められる失語症状と関連する脳の局所障害についての検討」, 第48回日本神経心理学会学術集会, 京都, 2024年9月5日-6日
55. 沼田悠梨子, 太田深秀, 北畠綾子, 竹内具子, 翠川晴彦, 田村昌士, 高橋卓巳, 根本清貴, 新井哲明: ポスター「アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症の視覚性課題の特徴について- Reyの複雑図形の模写, 直後再生, 30分後再生の結果から-」, 第39回日本老年精神医学会, 札幌, 2024年7月12日-13日
56. 太田深秀, 佐藤典子, 木村有喜男, 重本蓉子, 松田博史: 進行性核上性麻痺患者における脳内異物除去システム, 第39回日本老年精神医学会, 札幌, 2024年7月12日-13日
57. 太刀川弘和, 河西千秋, 大塚耕太郎, 小山達也, 張賢徳: 職場の自殺対策: 予防と事後対応, 自殺予防委員会企画ワークショップ: 第21回日本うつ病学会, 大阪, 2024年7月12日-13日
58. 太刀川弘和: 孤独・孤立と自殺について (総論), シンポジウム「孤立・孤独と自殺: その予防可能性を探る」, 第21回日本うつ病学会総会, 大阪, 2024年7月12日-13日
59. Nemoto M, Yamada Y, Shinakwa K, Kobayashi M, Ota M, Nemoto K, Arai T: 「An exploratory analysis of the associations between accelerometer-derived measures and future health related changes in older adults: preliminary results on prospective cohort study」2024 IEEE International Conference on Digital Health, 中国, 2024年7月7-13日
60. Yamada Y, Kobayashi M, Shinakwa K, Nemoto M, Ota M, Nemoto K, Arai T: 「Digital Measures of Drawing Process to Predict Multiple Cognitive and Gait Measures in Older Adults」2024 IEEE International Conference on Digital Health, 中国, 2024年7月7-13日
61. 白鳥裕貴, 袖山紀子, 太田深秀, 新井哲明, 太刀川弘和: ポスター「メンタルヘルススクリーニングは大学卒業を予測するか」, 第120回日本精神神経学会学術総会, 札幌, 2024年6月20日-22日

62. 太刀川弘和：大学生の自殺予防対策：今後の取り組みに向けて シンポジウム「若者のメンタルヘルス問題の現実と対応：大学キャンパスを拠点に」，第 120 回日本精神神経学会，札幌，2024 年 6 月 20 日-22 日
63. 太刀川弘和：メディアと自殺 - 協働の視点で，シンポジウム「メディア×メンタルヘルス 3.0 - どう協働すべきか」，第 120 回日本精神神経学会，札幌，2024 年 6 月 20 日-22 日
64. 小川貴史，白鳥裕貴，中村哲也，和智萌，東理美沙，矢口知絵，齋藤環，堀孝文，太刀川弘和：地域のひきこもり者に対するアウトリーチ支援の有用性の検討，第 120 回日本精神神経学会，札幌，2024 年 6 月 20 日-22 日
65. 河西千秋，大塚耕太郎，太刀川弘和，成田賢治，張賢徳：複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ，自殺予防委員会企画ワークショップ，第 120 回日本精神神経学会，札幌，2024 年 6 月 20 日-22 日
66. 川晴彦，相羽美幸，古村健太郎，櫛引夏歩，菅原大地，川上直秋，白鳥裕貴，太刀川弘和：一般演題「客観的孤立・主観的孤立・孤独と抑うつに関連—社会的孤立・孤独に関するオンラインアンケート調査結果より」，第 120 回日本精神神経学会学術総会，札幌，2024 年 6 月 20 日-22 日
67. Wataya K, Tachikawa H: Japanese version of the Moral Resilience Scale (RMRS) Development Study. Moral Resilience and Ethical Practice, Geneva, Switzerland June. 5, 2024

<総説>

1. 太刀川弘和，白鳥裕貴，相羽美幸，川上直秋，菅原大地：「孤立・孤独と自殺」BRAIN and NERVE Vol.77 (2): 149-153, 2025.2
2. 白鳥裕貴，太刀川弘和：「大学生の自殺予防 精神科医が知っておきたいこと」精神医学 67(2): 195-153, 2025.2
3. 翠川晴彦，太刀川弘和：「新型コロナウイルス恐怖尺度について分かったことと今後の課題」調剤と情報 2025.1 臨時増刊号 31(2): 160-167, 2025.2
4. 渡部衣美，根本清貴，太刀川弘和，山川百合子，繁田雅弘，新井哲明。【課題解決型高度医療人材養成（精神領域）のこれから - 産業保健との関連から -】精神科多職種連携・ケアを担う人材養成プログラム「PsySEPTA」の取り組み. 精神神経学雑誌 127: 17-23, 2025
5. 太刀川弘和，白鳥裕貴，相羽美幸，川上直秋，菅原大地：「社会的孤立・孤独問題に ICT は活用できるのか」医療と社会 34(1)：71-77, 2024.6
6. 太田深秀，新井哲明：「認知症のスクリーニングで行われる認知機能検査」臨床精神薬理 PP371-376. 星和書店，2024.4

<講演>

1. 三浦紘世. 坐骨神経痛の適切な診断と多面的治療アプローチ ～腰部脊柱管狭窄症による神経障害性疼痛のマネジメントを中心に～. 霞ヶ浦の神経障害性疼痛を考える会 WEB セミナー. 2024 年 9 月，オンライン

2. 三浦紘世. 成人脊柱変形に伴う神経障害性疼痛のマネジメント～腰痛を見極めるポイントと最近の治療動向～. Pain Live Symposium in 水戸. 2024年4月, オンライン
3. 三浦紘世. 腰部脊柱管狭窄症に伴う神経障害性疼痛の治療戦略～難治例を作らないためのエッセンス～. Pain Live Symposium WEB セミナー. 2024年3月, オンライン
4. 三浦紘世. 成人脊柱変形治療における三次元歩行動作解析による動的な脊椎バランス評価の試み. 第18回関東MIST研究会 北関東セミナー. 2024年3月, JPタワー ホール&カンファレンス (東京)
5. 三浦紘世. 若手に伝えたい, 臨床と研究の両立のためのタイプを高める工夫～骨粗鬆症治療もタイプを意識して～. Ibaraki Next Generation Forum. 2024年1月, ハイブリッド (筑波大学附属病院桐の葉モール)
6. 三浦紘世. 安全な胸腰椎前方固定を目指して. Navigated OLIF 胸椎前方固定術 Training Course. 2024年6月, Medtronic Innovation Center (川崎)
7. 三浦紘世. 海外におけるエクサゲームの事例と日本での今後について～疾患要素における自動ゲーム選出の可能性～. カンファレンス「リアルサイバースポーツ環境を作るコミュニケーションロボットの効果と可能性について」. 2024年3月, 有明セントラルタワー ホール&カンファレンス (東京)
8. 三浦紘世. 腰痛症に対する HAL 腰タイプを用いたロボットリハビリテーションの取り組み. オルソタイムズ. 2024; 17(2); 06
9. 太刀川弘和: 院内自殺対策 (一次予防): 医療安全としての自殺予防研修, がん患者の自殺対策 - 研究成果普及のための公開シンポジウム (オンライン) 2025年3月2日
10. 太刀川弘和: ゲートキーパー講習会—教職員ができる基本的対応—, 上智大学ウエルネスセンター研修会 東京 2025年2月28日
11. 太刀川弘和, 松尾 真裕子: 自殺未遂者支援研修会「過量服薬への対応を考える」, 令和6年度厚生労働省自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業 つくば 2025年2月21日
12. 太刀川弘和: 自然災害後の自殺予防—能登半島地震を踏まえて—, 令和6年度石川県自殺未遂者支援体制整備研修会 (オンライン) 2025年2月17日
13. 太刀川弘和: 笠間市ゲートキーパー研修会, 笠間市ゲートキーパー研修会 笠間 2025年2月6日
14. 太刀川弘和: 危機に対応できる産業精神医学, —メンタルヘルスの世界的教育研究拠点を目指して—, 令和6年度 筑波大学生命科学域セミナー I つくば 2024年12月26日
15. 太刀川弘和, 高橋晶, 辛島俊秀, 間中一至: 茨城 DPAT 活動報告, 令和6年石川 DPAT 活動振り返り会 (オンライン) 2024年12月22日
16. 河西千秋, 石橋竜太郎, 太刀川弘和, 翠川晴彦: 地域医療に従事するかかりつけ医師のための研修会, ～こころの連携指導料 (I) 要件研修～, 令和6年度 厚生労働省自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業 水戸 2024年12月21日
17. 太刀川弘和: 「自傷行為・自殺企図の防止」, 2024年度筑波大学附属病院第9回組織リスクマネージャー連絡会議 つくば 2024年12月19日
18. 根本みゆき, 根本清貴, 笹井浩行, 東晋二, 太田深秀, 新井哲明: シンポジウム 若年性認知症の

非薬物療法—前頭側頭葉変性症に対する運動療法の経験を含めて— 第 43 回日本認知症学会学術集会 福島 2024 年 11 月 21 日-23 日

19. 渡部衣美：講師 PsySEPTA 第 6 回ワークショップ 2024 年 11 月 10 日 一般社団法人筑波精神研修センター
20. 太刀川弘和：自殺未遂者への医療対策・連携体制・対応の在り方について、「自殺未遂者支援について考える」シンポジウム，秋田大学自殺予防総合研究センター主催シンポジウム 秋田 2024 年 11 月 9 日
21. 太田深秀：演者「高齢者が知っておきたい“こころ”の健康 ～うつ予防や物忘れを考える～」，令和 6 年度心の健康づくり講演会 2024 年 10 月 27 日 つくばみらい市健康増進課
22. 太刀川弘和，松尾真裕子，高村佳幸，成重竜一郎：関東圏ケースマネジメントブラッシュアップ研修会，令和 6 年度 厚生労働省自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業 水戸 2024 年 10 月 25 日
23. 太刀川弘和：ここが知りたい！自殺予防のケース対応，PsySEPTA 第 1 回アルムナイ・ミーティング（オンライン）2024 年 10 月 7 日
24. 太刀川弘和：職場における自殺予防対策～ケースカンファレンス～，茨城県医師会 令和 6 年度 第 5 回産業医研修会 水戸 2024 年 10 月 4 日
25. 太刀川弘和：銚田市ゲートキーパー養成講座，職場のメンタルヘルス対策を中心に，銚田市ゲートキーパー養成講座 銚田 2024 年 10 月 3 日
26. 太刀川弘和：こども・若者の自殺予防教育，JSPN オンライン研修会「こども・若者の自殺予防を考える」2024 年 9 月 29 日
27. 太刀川弘和：こどもの自殺予防の基礎知識，茨城県精神保健福祉センター，令和 6 年度若年層自殺対策研修会 水戸 2024 年 8 月 22 日
28. 太刀川弘和：一人だけど寂しくない～健康の視点から個立社会を考える～，南山大学
29. 太刀川弘和：学校危機と向き合う生徒指導 —自殺予防対策を中心に—，独立行政法人教職員支援機構，令和 6 年度生徒指導基幹研修 つくば 2024 年 7 月 11 日
30. 渡部衣美：講演 妊産婦のメンタルヘルスについて 令和 6 年度母子保健推進研修会 2024 年 6 月 茨城県
31. 太刀川弘和：自殺予防からはじめるこころとからだの医療連携，千葉県精神神経科診療所協会 学術講演会 幕張 2024 年 5 月 21 日
32. 太刀川弘和：災害が起きた時私たちが知っておくべきこと，第 95 回コンボ亭講演会（オンライン）2024 年 5 月 18 日
33. 太刀川弘和 ほか：南海トラフ心のケア最大 22 万人，茨城新聞，2025 年 2 月 3 日号
34. 太刀川弘和：小中高生自殺 最多 527 人 昨年 14 人増，高止まり，毎日新聞 2025 年 1 月 30 日号
35. 太刀川弘和：小中高生の 自殺過去最多に専門家が指摘する家庭でできること，毎日新聞 WEB 2025 年 1 月 29 日号 8 面
36. 太刀川弘和：一人だけど淋しくない～健康の視点から個立社会を考える～，「独りでいること社会倫理」，南山大学社会倫理研究所・上智大学生命倫理研究所共催公開シンポジウム 2024 講演録，pp.13-23, 2025

37. 太刀川弘和, 高橋あすみ, 石井映美, 布施泰子, 松原敏郎, 丸谷俊之, 小田原俊成, 河西千秋, 三井信幸, 岡本百合, 渡辺慶一郎, 川島義高, 白鳥裕貴, 菅原大地, 梶谷康介, 太田深秀, 安宅勝弘: 大学生の自殺予防プログラム全国開発研究 2023 年度研究班活動報告 (要旨), 大学のメンタルヘルス vol.8, 62-63, 2024 年 12 月
38. 太刀川弘和: 国公立病院の秋 識者の眼 医療界を読み解く, 日本医事新報 2024 年 10 月号, pp64, 2024.
39. 太刀川弘和: 学校教育と免疫, 識者の眼 医療界を読み解く, 日本医事新報 2024 年 8 月号, pp86, 2024.
40. 太刀川弘和: 死のメディア報道, 識者の眼 医療界を読み解く, 日本医事新報, 2024 年 7 月号, pp2, 2024.
41. 太刀川弘和: 「1 人」は悪いことじゃない=大場あい (社会科学部), 24 色のペン 毎日新聞 (電子版), 2024 年 6 月 13 日
42. 太刀川弘和: 災害が起きた時知っておくべきこと, しんぶん赤旗, 2024 年 6 月 7 日号 8 面
43. 太刀川弘和: 「孤立」は悪くない「孤独」でなければ 筑波大など 抑うつ症状を分析, 朝日新聞, 2024 年 6 月 4 日号
44. 太刀川弘和: ポストコロナのメンタルヘルスと自殺予防, 国際ロータリー第 2820 地区奉仕プロジェクトセミナー 職業奉仕委員会講演要旨, ロータリーの友, 2024 年 6 月号, 4-8, 2
45. 太刀川弘和: ステイグマとしての精神医療, 識者の眼医療界を読み解く, 日本医事新報, 2024 年 6 月号, pp54, 2024.
46. 太刀川弘和, 高橋あすみ, 布施泰子, 石井映美, 松原敏郎, 丸谷俊之, 小田原俊成, 河西千秋, 三井信幸, 岡本百合, 渡辺慶一郎, 川島義高, 白鳥裕貴, 菅原大地, 梶谷康介, 太田深秀, 安宅勝弘: 大学生の自殺予防プログラム全国開発研究班活動報告 (要旨), 大学のメンタルヘルス vol.6, 61-61, 2024 年 6 月
47. 太刀川弘和, 安宅勝弘, 石井映美, 渡辺慶一郎, 川島義高, 高橋あすみ, 大塚尚: 学生向け自殺対策動画「自殺のリスクから自分や大切な人を守るために, 知ってもらいたいこと」, 東京都保健医療局 ここナビ, 2024 年 5 月 21 日公開
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kokonavi/student.html>
48. 太刀川弘和: 5 月の合理的配慮, 識者の眼 医療界を読み解く, 日本医事新報, 2024 年 5 月号, pp54, 2024.
49. 太刀川弘和: 医師の働き方改革と職場メンタルヘルスのあり方, 識者の眼 医療界を読み解く, 日本医事新報, 2024 年 4 月号, pp54, 2024.
50. 太刀川弘和: 巻頭言 社会精神医学は今どこにいるのか 日社精医誌, 33: 367-368, 2024
51. 太刀川弘和: 令和 6 年能登半島地震における DPAT の活動を通じたメンタルヘルスケアについて, 令和 5 年度自殺対策白書, pp121, 2024

令和 8 年 3 月

編集・発行 筑波大学保健管理センター

〒 305-8577

茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1

電話 (029) 853 - 2401

FAX (029) 853 - 2402
